

まちづくり推進委員会第18回“地域支え合い分科会”議事録

○日 時 2021年1月5日(火) 午後3時～4時30分

○開催方法 ZOOM

○参加:16名

㊦東京大学高齢社会総合研究機構(IOG):4名

高瀬特任研究員、東海大学工学部建築学科後藤准教授、佐賀大学大学院学校教育学研究科荻野准教授
細萱研究員

㊦地域支え合い分科会:12名

検討テーマ:“コロナ禍”前㊦中㊦後“に関する地域活動に関するアンケートについて

1 町内会館で再開した“体操教室”のメンバーへのアンケートの実施について

㊦ 高齢でむしろサポートを受ける方々が多いため、“サポートの受け手側”に対するアンケート及びヒアリングの対象として捉え、“サポート側”のアンケートとは別にして、追って検討をすることとした。

2 分科会(町内会)委員及びサポーター応募者などへのアンケートの実施について

(1) 高瀬先生が、再度アンケート案を作成し、分科会員の意見を踏まえたうえでアンケートを確定する。

(2) アンケートは以下に方々を対象として、高瀬先生から40部をA委員宅に送付する。

㊦町内会の分科会委員及びサポーターに応募された方(㊦24名)+16名(想定)=40部

○A委員=4部+α

○B委員=3部

○C委員=4部+α

○D委員=5部+α

○E委員=6部+α

○F委員=2部+α

(3) A委員が、高瀬先生から送付されたアンケートを5名の配布担当委員に配布する。

(4) アンケートの返送の宛名は東大IOGとし、回答者はそれぞれ東大IOG宛に返送する。

(5) アンケート後に付帯する“ヒアリング”の方法については、これから並行して詰める。

【荻野先生のコメント】

本年4月に介護保険法改正が施行され、“自助・共助・公助”の枠組みが示されたので、“まちづくり”もそれを視野に入れた取組が大切。

<https://www.mhlw.go.jp/content/000640392.pdf>

【後藤先生のコメント】

①Demand(顕在化した欲求)とNeeds(潜在的な欲求)の違いが大切。

②一定の整理ができた段階で市役所(&社協・地域包括)と接触する。